

A-FIVE の検証に係る検討会（第 1 回） 議事要旨

日時：令和 2 年 2 月 18 日（火） 10：30～12：00

場所：食料産業局第 1 会議室

出席委員：別紙のとおり

1 農林水産省からの説明

- ・ A-FIVE の出資スキーム、予算措置の状況、制度・運用改善の内容、昨年 4 月に策定された投資計画と現在の実績、これを踏まえた令和 3 年以降の新規の出資決定の停止等について説明した。
- ・ その他、本検討会の今後の議論の進め方等の案について説明した。

2 A-FIVE からの説明

- ・ A-FIVE の組織体制、出資決定及び E X I T に係る手続き、モニタリング・経営支援の内容、サブファンド出資及び A-FIVE による直接投資の状況、E X I T の状況等について説明があった。
- ・ また、現在、出資が行われている案件の経営状況についても説明があり、これまでの実績からみると、1 倍以上の回収が見込めている業況区分に属する案件が、現状は 8 割以上である旨の説明があった。

3 意見・質問等

【投資規模等について】

- ・ 当初、想定していた出資件数、規模等が大きすぎたのではないか。
- ・ そもそもビジネスモデルとして、出資の規模と業務のあり方のバランスに問題があったのではないか。
- ・ なぜ規模が小さかったかという点だけでなく、なぜ、件数が伸びなかったのかということをもっと新たな状態で分析をしていく必要がある。

【対象とする投資分野等について】

- ・ 農林水産省の政策との連続性の中で、出資の対象を狭めたことが問題だったのではないか。
- ・ 農業者 25%超の出資要件は、農業者の A-FIVE の活用意欲を減退させたと考えている。その後、制度・運用の改善は行われているが、最初のイメージが農業者に定着したままである。
- ・ 事業再編等の分野は、植物工場や農業ドローン等のアグリテック事業でも活用ができ得るため大きな資金ニーズがあるはず。一方で、ベンチャー企業や投資会

社等に、A-FIVE がこういった出資メニューを持っていることが浸透していなかった感がある。

【サブファンドについて】

- ・ サブファンドのG Pは案件組成にどのように取り組んできたのか。その属性と、実際の成果の相関を分析すべきではないか。

【経営支援について】

- ・ こういった領域でリード投資家として出資を行う場合、投資会社が出資先企業に伴走しながら成長させていくことが必要。その中で、その分野に強いパートナーと組んで出資し共同で経営支援をしていくこと等も重要。

【EXITについて】

- ・ EXITについて制約が大きいのではないか。そういう中で、どのようなEXITを想定していたのか。出資を受けた会社や、他の株主はファンドの株を買い取る余裕はないのではないか。

【出資判断等について】

- ・ 失敗事例について、なぜ想定どおりにいかなかったのか、徹底的に分析すべきではないか。
- ・ 事業計画の審査に当たって計画の精査がしっかりできていたのか。そういう中で、将来の成長の前提となる一次生産部分の生産力の向上も組み込まれていたのか。

【その他】

- ・ 検討会の進め方として、個人の経営責任等を問う場ではなく、出資スキームや、また、実際の出資の内容について、大局的な見地から、議論を行う場としたい。
- ・ 出資を受ける事業者は、出資を活用する以上、融資と出資について区別し、選択ができる素養が必要。出資先の属性を分析する必要。
- ・ 農業はそれほど儲からない。そういう中で、産業投資という資金を活用することが適当だったのか。
- ・ 2次3次と拡大するサプライチェーン全体で取り組む必要があり、農林漁業者が主体となって6次化に取り組むことができるのか。資金以外の人的資源も呼び込めないと新規事業は難しい。

(以上)

A-FIVE の検証に係る検討会委員名簿

(五十音順、敬称略)

かわもと あきら
川本 明

アスパラントグループ (株)
シニアパートナー
(慶應義塾大学経済学部特任教授)

こまさ みずき
小正 瑞季

リアルテックファンド
業務執行役グロースマネージャー

たかた はじめ
高田 創

岡三証券 (株) グローバル・リサーチ・センター
理事長 エグゼクティブエコノミスト

ながもり かつし
長森 克史

明治ホールディングス (株) 経営企画部長

まるた ひろし
丸田 洋

(株) 穂海 代表取締役

※必要に応じ、委員の追加があり得ます。